

さいたま市立内谷中学校



教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく

令和 元年 7月 1日

第462号

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 Tel. 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

## 「成長」

校長 丹 能成

現在大会が行われている競技もありますが、6月1日(土)から6月7日(金)にかけて、さいたま市中学校総合体育大会が開催されました。生徒たちの懸命にプレーする姿や応援する姿、仲間を励ます姿に胸が熱くなりました。県大会に出場する生徒たちには、さいたま市の代表として全力で頑張ってきてほしいと思います。

大会に臨むにあたり、生徒たちは、チームや個人の目標を設定し、その達成に向け、それぞれの思いを胸に部活動に取り組んでいたことと思います。目標を達成できたことから得られるものは勿論大きいですが、目標を達成できなかったことから得られるものもたくさんあります。大切なのは、経験を次に生かすことです。生徒たちの更なる成長を期待しています。

6月22日(土)から6月24日(月)までの2泊3日の日程で、3年生は、京都・奈良へ修学旅行に行ってきました。天候にも恵まれ、充実した3日間を過ごすことができました。

生徒たちには、準備を含め修学旅行の取組を通して得たものを今後に生かし、中学校生活を更に充実させてほしいと思います。

修学旅行の1日目、全員で能楽堂へ行き、狂言を鑑賞しました。伝統に裏打ちされた芸は、時を経ても朽ちることなく世代を超えて人の心に響くのだと感心しました。

狂言は、日本最古の喜劇で、能とあわせて能楽と総称されます。能楽は、600年以上の歴史があり、海外でも高い評価を受け、ユネスコ世界無形文化遺産に登録されています。

能といえば、社会科の歴史の教科書にも出てくる室町時代の世阿弥(ぜあみ)がいます。世阿弥は、著書の能楽論書「花鏡」(かきょう)の中で、よく知られている次の言葉を残しています。

しかれば、当流に、万能一徳の一句あり。

初心不可忘(しょしんわするべからず)。

この句、三箇条の口伝あり。

是非初心不可忘(ぜひのしょしんわするべからず)。

時々初心不可忘(じじのしょしんわするべからず)。

老後初心不可忘(ろうごのしょしんわするべからず)。

「初心」とは、「初心者頃の未熟な状態」を意味します。つまり、世阿弥のいう「初心忘るべからず」は、「何かをはじめたときの下手だった記憶や、そのときに味わった悔しさや恥ずかしさ、情けなさ、そこから今に至るまでの努力をいつまでも忘れてはならない」という意味です。さらに、世阿弥は、いくつになっても自分は未熟な状態であることを自覚し、精進しなければならないと言っています。

時代の移り変わりとともに、学校に求められることも変化してきています。不易なものを大切にしながら、その時その時に応じた教育を行っていかなければなりません。「自らの未熟さ」を自覚し、成長し続ける内谷中学校でありたいと思っています。